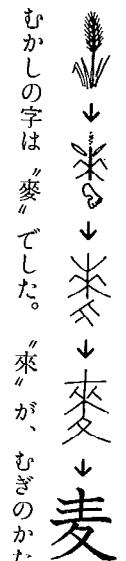


麦

二年
筆順
クン
ムギ

主
麦

成り立ち



むかしの字は「麥」でした。「來」が、むぎのかたちをあらわした字で、「久」は「足のうら」のかたちをあらわした字です。「『むぎ』は、足でふまれればふまれるほどつよくそだちます。それで「久」があります。

〔麦は、中国の古代に中央アジアから伝来したものである。それで、麦の本字「來」に、足の意味の「久」を加えて「麥」という字を作り、「来る」という意味を表した。ところが、「来る」といういみの「麥(麦)」が「むぎ」にあやまってつかわれ、「むぎ」の意味の「來(来)」が「くる」になつた。「おと」を表した「声」が「こえ」になり、「こえ」を表した「音」が「おと」を表す文字となつたのと同様の例である。〕

半

二年
筆順
クン
ムギ

画数
5
三半

成り立ち



「牛」という字と、二つに分けたかたちをあらわした「ハ」とをくみあわせてつくった字です。「牛を半分にする」ことで、「半分」「半ば」といういみにつかわれます。

使い方

△おじいちゃんにお年だまをもらつたので、半分ちよぎんして、半分つかいました。

△どうようびのじゅぎょうは半日でおわりです。

△まだ正月半ばなのに、もうはるのようなあたたかい日です。「ことしははるが早いね」と、おばあちゃんがいました。

熟語例

△半分 (ものを二つに分けた、かたほう。半ば)

△半分 (一月の半分。十五日)

△半月 (一日の半分)

△半月 (半分のお月さま)

△半減 (半分に減ること)

△半端 (ちゃんとぜんぶそろっていないこと。なにか、かけたものがあるもののこと。)

△半死半生 (半分死にかかっていること。「半死半生の目にあつた」といえば、ひどい目にあつて、死にかかる、ということです。)

△一知半解 (じゅうぶんよくわかつていないこと。なまかじりで、よくわかつていないこと。)

△大麦 (麦のなかま。麦飯にしてたべるほか、ビールや

こなにひいて、パンやうどんにしてたべます。つぶが小麦にくらべて小さいので、小麦といいます。)

△小麦 (麦のなかま。ひいてこなにし、パンやうどんやおかしのげんりょうにつかわれます。)

△麦飯 (大麦と米をまぜて、たいたごはん。むかしは麦だけでたいたごはんのことをいいましたが、今では十

△二十パーセントの麦をまぜてたきます。)

△麦茶 (大麦をいつて、お茶のようにせんじてのむのみのもののこと。麦湯ともいいます。)

△麦藁 (麦のつぶをとりさつた「くき」のこと。麦からともいいます。)

△麦芽 (大麦を発芽。芽を出すこと)させたもので、ビルやあめのげんりょうになります。)

△麦酒 (ビルのことです。大麦をげんりょうにして作った酒、といういみのことばです。)

使い方

二二六